



2017年10月3日
宮城県亶理郡亶理町
公益財団法人イオン環境財団

海岸防災林と緑あふれる森林の再生を目指して
10/7 (土) 第2回「宮城県亶理町植樹」開催
1,000名のボランティアの皆さまと15,000本を植えます

宮城県亶理郡亶理町（町長 齋藤貞）と公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也
イオン株式会社名誉会長相談役）は、10月7日（土）、第2回「宮城県亶理町植樹」を
実施します。

宮城県の南東部に位置し太平洋に面する亶理町は、農業が盛んで美しい自然に囲まれた
地域です。この度の植樹は、宮城県・亶理町・当財団による「みやぎ海岸林再生みんなの
森林づくり活動」の協定に基づき、東日本大震災により大きな被害を受けた海岸防災林
ならびに緑あふれる森林の再生を目指し、昨年より3年計画で実施しているものです。

昨年は、震災後に同町で採種し育てられたコナラやヤマザクラなどの苗木
13,000本を1,100名のボランティアの皆さまと植樹しました。2年目となる本年
は、全国各地からのボランティア1,000名の皆さまと15,000本を植えます。

イオンは「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」という
基本理念のもと「イオン 心をつなぐプロジェクト」を発足し、植樹活動やボランティア
活動など、被災地の復興・創生に向け、さまざまな活動を行っています。さらに、当財団
ならびに公益財団法人イオンワンパーセントクラブは、2018年6月10日（日）に
福島県南相馬市で開催される「第69回全国植樹祭ふくしま2018」に対し、苗木提供
や運営に対する協賛協力を通じ復興に向けた支援を行います。

亶理町とイオン環境財団は、今後も地域の豊かな自然と人々の暮らしを守るため、植樹
活動に取り組んでまいります。

記

日 時	2017年10月7日（土）10:00～11:30		
場 所	宮城県亶理郡亶理町吉田字砂浜地内		
本 数	15,000本		
参加者	1,000名		
面 積	3.7ha		
樹 種	コナラ・ヤマザクラ・クロマツ・ケヤキ・エノキ・クリ・シロダモ（計7種）		
主 催	宮城県亶理郡亶理町・公益財団法人イオン環境財団		
後 援	宮城県		
協 力	特定非営利活動法人わたりグリーンベルトプロジェクト・イオン各社		
出席者 (予定)	宮城県	副知事	河端 章好 様
	宮城県岩沼市	副市長	鈴木 隆夫 様
	福島県南相馬市	副市長	田林 信哉 様
	福島県広野町	副町長	本田 明 様
	宮城県亶理郡亶理町	町長	齋藤 貞
	公益財団法人イオン環境財団	理事長	岡田 卓也
	イオン株式会社	取締役会議長	横尾 博
	イオン株式会社	東北代表	家坂 有朋
	イオンモール株式会社	取締役会長	村上 教行

以上

ご参考

イオンの東北地方における取組みについて

【公益財団法人イオン環境財団】

■植樹

・秋田県下浜海岸植樹（2005年～2009年）

酸性雨や松食い虫の被害にあい、大部分が立ち枯れ状態にあった秋田県の日本海沿岸の松林を再生するため、5年間でボランティアの皆さま4,300名とともに42,250本を植えました。2007年の植樹には、当財団の15周年記念式典にてご講演いただいた、ノーベル平和賞受賞者であり、元ケニア環境副大臣のワンガリ・マータイ女史にもご参加いただきました。

・山形県南陽市植樹（2010年～2012年）

松くい虫被害などで荒れた森林を再生させるため、2010年から3年間で実施。ボランティアの皆さま1,000名とともに5,100本を植えました。

・宮城県石巻市植樹（2012年）

1,600名のボランティアの皆さまとともに、東日本大震災で津波被害を受けた上釜ふれあい広場にて植樹活動を実施。地域に自生する苗木15,000本を植えました。

・第1回 宮城県亶理町植樹（2016年）

東日本大震災の津波により流失した海岸防災林の再生を目指し、宮城県が推進する「みやぎ海岸林再生みんなの森林づくり活動」に賛同し、3年計画にて実施。初年度となる2016年は、ボランティアの皆さま1,100名が震災後に同町で採種し、育てたコナラやヤマザクラなどの苗木13,000本を植えました。



2016年 宮城県亶理町植樹

・福島県いわき市植樹（2017年）

福島県・いわき市と締結した「森林づくりに関する協定」に基づき東日本大震災により流失した防災海岸林ならびに沿岸部の再生を目的に行うもので、当日は、700名のボランティアの皆さまとともに、7,000本の木を植えました。

■顕彰事業

・生物多様性日本アワード（みどり賞）

2009年に「生物多様性の保全と持続可能な利用の促進」を目的に、「生物多様性日本アワード」を創設。隔年で国内の優れた取り組みを顕彰しています。

宮城県内の授賞団体

- | | | |
|------------------------|---------|-------|
| ・日本雁を保護する会 | (2011年) | グランプリ |
| ・有限会社熊谷産業 | (2011年) | 優秀賞 |
| ・特定非営利活動法人田んぼ | (2013年) | グランプリ |
| ・ネイチャー・テクノロジー研究会（東北大学） | (2013年) | 優秀賞 |
| ・気仙沼市立大谷中学校 | (2015年) | 優秀賞 |
| ・宮城県漁業協同組合 | (2017年) | 優秀賞 |

■環境活動助成事業

世界各地で、生物多様性の保全とその持続可能な利用のために活動する団体に対して助成を行っています。

《東北地方で活動を行う団体への助成》（2011年以降）

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| ・伊豆沼・内沼ドジョウ・ナマズ研究会 | ・ NPO法人 白神ネイチャー協会 |
| ・ NPO法人 輝く猪苗代湖をつくる県民会議 | ・ (公財) 鎮守の森のプロジェクト |
| ・ (公財) 瓦礫を活かす森の長城プロジェクト | ・ NPO法人 とんぼエコオフィス |
| ・ NPO法人 環境改善協会 | ・ NPO法人 日本ツキノワグマ研究所 |
| ・ NPO法人 環境再生機構 | ・ (一社) ふらっとーほく |
| ・ NPO法人 環境生態工学研究所 | ・ 本州産クマガラ研究会 |

- ・ 草木谷を守る会
- ・ グループ「森」の会
- ・ NPO法人 こころの森
- ・ NPO法人 白神山地を守る会
- ・ 水原の自然を守る会
- ・ NPO法人 リアスの森応援隊
- ・ NPO法人 わたりグリーンベルトプロジェクト

■環境教育事業

・「アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）」

環境分野において、グローバルなステージで活躍する人材育成に取り組んでおり、環境教育事業を重要な活動のひとつに位置付けています。2012年にスタートした本フォーラムは、毎年1カ国1大学を加えながら実施しており、本年は、タイのチュロンコン大学を迎え、8カ国8大学64名の大学生が「生物多様性と再生」というテーマのもと、東北の被災地を中心にフィールドワークを行いました。



宮城県 亶理町での太鼓体験

【公益財団法人イオンワンパーセントクラブ】

■アフンの森震災復興プロジェクト

一般財団法人C. W. ニコル・アフンの森と連携し、東松島市にて学校隣接の森の中に環境学習施設を取り入れた学校建設を支援いたしました。

■神社境内や社有地にある「鎮守の森づくり」の再生を支援

2015年度まで、近隣の住民を災害から守る防災林として、神社境内および社有地にある「鎮守の森」の再生を支援しました。東北においては、これまで986名の地域の皆さまにご参加いただき、計9カ所で、累計16,433本の植樹を行いました。



2013年 宮城県
気仙沼一景島神社での植樹

【イオングループ各社】

■東北の創生に向けた取り組み

震災から1年後の2012年3月より、「3.11復興への願いをカタチに」を合言葉に、東北の農水畜産業の復興・活性化を継続的に応援するべく、東北の生産者の皆さまのご協力のもと、東北産原材料を使用した商品開発や、国内外のグループ店舗での東北フェアの開催等を通じ、東北製品の販売拡大を図ってきました。

震災から5年となる2016年からは「にぎわい東北一つなげよう、ふるさとのチカラ」という新たな決意のもと、「復興支援」のステージから「地域（ふるさと）の創生」のステージに進むべく、グループをあげて地域の持つチカラを成長へのうねりに変え、“にぎわい”あふれる東北の未来をつくりたいという想いで取り組んでいます。



■イオン 心をつなぐプロジェクト

2012年3月にイオンの労使一体で復興支援ボランティア活動などを進める「イオン 心をつなぐプロジェクト」を発足。2021年までの10年間で被災地へのボランティア派遣30万人、被災地沿岸部に30万本を植樹する目標を掲げ、取り組みを進めています。東北復興ふるさとの森づくりなどを通じた本プロジェクトでの植樹本数は、2017年6月末までに217,665本となりました。

また、震災から5年を経た2016年5月には、被災地における社会的課題のひとつが「持続可能な地域共同体の再生であると考え、地域交流型の支援活動を通じて持続可能なコミュニティの再生を目指す「イオン 未来 共創プログラム」をスタートしています。



2017年 第1回高田松原植樹